

KOCA NEWS

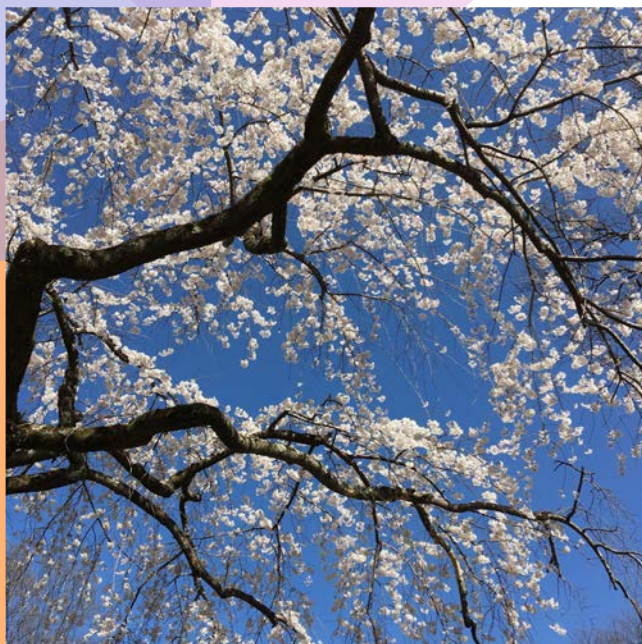
2023年4月号

〒600-8127

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 8 3 番地の 1
ひと・まち交流館 京都 PO.BOX No.27

E-mail : office@koca.or.jp

ごあいさつ



日増しに暖かな陽気になり、過ごしやすい季節となりました。4月から新しい環境での生活を始める人もいらっしゃるのではないのでしょうか。

KOCAとしての新年度も始まりました！

JICA海外協力隊の活動を知る事業、国際協力について理解する事業を通じて、京都に住まう人たちとつながりをつくっていきたいです。協力隊 OBOGのみなさま、国際協力に関心のある会員のみなさま、ぜひ力を貸してください。

5月には、KOCA総会が開かれます。年に一度の総会は、事業報告や事業計画の共有とともに、仲間に会う楽しみの時間にもなっていて、今年度も和やかな雰囲気でも互いの近況も伝え合えたら嬉しいです。ぜひご予定くださいな。

特定非営利活動法人 京都海外協力協会
会長 亀村 佳都

目次

- | | |
|--|---|
| 01 ごあいさつ | 05-06 JICA海外協力隊 活動報告
(サモア 理学療法士 千野 美沙希さん) |
| 02 国際理解講座「JICA海外協力隊セミナー」開催 | 07-08 連載 VIVA COLOMBIA
(コロンビア 野球 橋佳祐さん) |
| 02 1/20 協力隊ナビを開きました | 09 連載 読書を通して、ヒーローになれる。
(ソロモン 青少年活動 益井博史さん) |
| 03 モロッコからの朗報
～外国人のメッセージコンテスト出場者が
モロッコのスピーチコンテスト全国大会で優勝！～ | 10-11 連載 谷口英明さん × 小説 |
| 04 連載 青年海外協力隊員 現地レポート
「ガーナ料理の紹介」(池田愛子さん) | 12 行事予定のお知らせ |

国際理解講座「JICA海外協力隊セミナー」開催

1月15日、せいかグローバルネットと精華町と共催で、
精華町役場交流ホールにて開催しました。

- 参加者22人
- KOCA、SGNスタッフ14人

最初に JICA京都デスクの畑中遙さんが、JICA海外協力隊について説明しました。

次に、バングラデシュOVの徳田優子さんが、活動の様子を話されました。感染症対策に取り組んだ経験を生かし、現在は精華町内の企業でグローバル人材の育グ進めておられます。

次に、小学校で勤務され、現在パラオ国の小学校で、(現職教員として)海外協力隊員で活動されている石田沙織さんが、オンラインで、現地の生活や活動の様子を話されました。

会場からは、「どうしたら、協力隊に行けますか?」「海外で生活して、一番困ったことは?」などたくさんの質問があり、関心の高さを伺えました。

アンケートにも、参加してよかったという意見をたくさんいただきました。参加者も意欲的で、とても盛り上がったセミナーでした。(杉浦)



協力隊ナビ 開催

1/20 (金) コミュニティカフェ新大宮で協力隊ナビを開きました。

参加申込をいただいた方から自動車整備を希望していると事前に聞いたおかげで、同じ職種で派遣された坂根さんに協力いただきました。スリランカでの活動写真を見て話を聞くと、現地の人たちと一緒に活動している様子が直に伝わってきていい感じ。技術職の場合、同じ職種だと話にグッと深みが出ます。協力隊ネットワークを生かして、応募者のニーズに添えるよう努めたいと思いました。

「いつか協力隊に行きたいな」と参加いただいた女性と、12月に行われた協力隊ナビに続いて参加いただいた女性2名含めて一般参加者3名、KOCA会員5名、合計8名で、全員で話したり、3つのグループに分かれて相談に乗ったり。今回は、KOCAメンバーで3年ぶりの再開を喜ぶ機会や参加者同士経験を尋ねあう場面も見られて、和気藹々とした雰囲気でした。

9月から1月にかけての協力隊ナビが、協力隊応募相談に乗る場、国際協力に関心のある人が集う場、協力隊OBの懇親の場となり、無事に実施できたことに感謝です。(亀村)



モロッコからの朗報！

～精華町の外国人のメッセージコンテスト出場者がモロッコのスピーチコンテスト全国大会で優勝！～



2021年12月12日にKOCAとせいかグローバルネットと精華町の共催で開催された『第20回日本語による外国人のメッセージコンテスト』にモロッコから動画で参加され、優秀賞に輝いたスミヤさんが、今年3月11日にモロッコで開催された『モロッコ日本語スピーチコンテスト』で、見事、優勝に輝いたという嬉しいニュースを、スミヤさんの日本語の先生で青年海外協力隊2018（H30）年1次隊日本語教師OVの北井万貴さんからいただきました。

このコンテストは年1回モロッコで開催されていました。がコロナ禍のため、今回は4年ぶりの開催だったそうです。モロッコ全土から参加されるそうで、スミヤさんはモハメッド5世大学の予選を勝ち抜き、同大学の代表として出場しました。

スピーチの内容は、「楽しかった大阪旅行」について話をして、最後に目が覚めたらすべて夢の話でしたというストーリーだそうです。

北井さんからは、「メッセージコンテストへの参加経験が活かされ、あのときの受賞が彼女の自信につながったのだと思います。メッセージコンテストに参加していなかったら、今回参加していなかったと思います。一昨年参加しようと思った彼女の勇気がこうやって結果になったのを目の当たりにすると、感慨深いです。」というコメントをいただきました。



北井さんには、2020年、2021年と2年連続教え子を出場させていただきました。2021年には、メッセージコンテストの表彰式で「モロッコで日本語教師として思うこと」と題して、モロッコでの日本語指導や協力隊員としての活動などを通して思うことをお話していただきました。

青年海外協力隊の活動が、このような形で繋がり、一人の女性の生き方に影響を与えていることに感動しました。（麻生）

なお、2020年、2021年コンテストの出場者のスピーチは
せいかグローバルネットのHP
(下のQRコード) からご覧になれます。





池田愛子さん（2021-3 ガーナ PCインストラクター）から現地レポートが届きました。



▲バンクー作りに挑戦

こんにちは。現在、西アフリカ、ガーナの職業訓練校でPCを教えています池田愛子と申します。ガーナに赴任し、あっという間に一年が経過しました。赴任当初は、停電、断水が多く、日本に帰りたいと思う日々でしたが、どんな時でも陽気で優しいガーナ人と過ごすうちにこんな生活も悪くないかなと思えるようになりました(笑)そんなガーナのまったりライフをお伝えできたらと思います。



▲学校の風景

私の任地ボルタ州トパリメは、首都アクラから車で4時間ほどの場所でボルタ湖のそばに位置します。ボルタ湖は、世界最大の人造湖であり、琵琶湖の13倍近くもあるそうです。任地は山に囲まれており、自然豊かな場所で京都の盆地と風景が似ていて、懐かしい気持ちになります。

1回目の今回は、ガーナの料理を紹介します。



▲今では大好きなバンクー

また、日本人に人気のガーナ料理の一つワチエは、米と豆、乾燥させたワチエの葉っぱを使った赤飯に似た料理でシチューやシトと呼ばれる旨辛ソースを乗せて食べます。以前は、「aikoのベストフードは、インドミー(インスタント焼きそば)だね」と言われていましたが、今では「aikoワチエレストランを開きなよ」と褒めてもらえるようになりました！今後も色々なガーナ料理に挑戦していきたいです。

ガーナは主食が多様でキャッサバ、ヤム、プランテン(食用バナナ)、トウモロコシ、米などを食べます。私の任地では、バンクーと呼ばれる食べ物が最も有名でキャッサバとトウモロコシを発酵させたものをお湯で練って団子状にし、右手で一口サイズにちぎり、小魚が入ったトマトソースやスープにつけて食べます。発酵食品のため、酸味が強く、初めは苦手でしたが今では大好きなガーナ料理の一つです。



▲自家製ワチエとシチュー

JICA海外協力隊活動報告「TOGETHER 飛び出そう、世界へ」

Profile

名前 千野 美沙希

隊次 2017年4次隊

派遣国 サモア

職種 理学療法士

現在の職業 国際NGOの職員



1 協力隊に応募した理由は何でしたか。

中学生の頃、国際協力に興味を持ち始めてからずっと国際協力に携わる仕事をしてみたいと思っていたため、理学療法士として3年経験を積んだら協力隊に応募しようと決めていました。

2 現地での活動や日々の生活の様子を聞かせてください。

活動先は現地の障害児を支援するNGOで、支援学校部門とサモア全土を巡回して訪問でリハビリテーションを行う部門の両方で活動していました。配属先には理学療法士の免許を持っているスタッフや特別支援の資格を持っている教員がないため、小児の理学療法の知識や技術、障害児への接し方や日常生活の工夫、補装具の提供や使い方の指導などを行っていました。巡回型のリハビリでは、3週間に1回は離島に1週間、同僚と滞在して寝食を共にしていました。

活動以外ではサモア人の家に遊びに行きご飯を食べたり、ボクササイズやズンバを習いに行ってみたり、登山をしたり、色々なアクティビティに挑戦しました。サモアは海がとてもきれいなので、活動が終わってから海に泳ぎに行くこともありました。海ではシュノーケリング、ダイビング、サーフィンなどを楽しんでいました。



▲巡回型の訪問リハビリにて

3 活動や生活のなかで

・戸惑ったり、困ったりしたことはどんなことでしたか？

日本人というだけでお金を持っているという印象なのか、同僚や仲良くなったサモア人の友人にお金を貸してと言われていたり、物をちょうだいと言われていたり、高価な物を買わされそうになったり、お金に関するトラブルに巻き込まれそうになることが多かったため、最初は戸惑っていましたが、慣れてくると危機察知能力が高まってくるので、戸惑いもなく、「私はお金がありません」と言って、かわすことができるようになっていました。

・失敗や苦労はどんなことがありましたか？

サモアの首都(アピア)に住んでいたのですが、地方に比べると治安が悪く、2年間で数回引っ越しをしたことが大変でした。引っ越しの際に、住む場所がなかなか見つからず、見つかるまではドミトリー生活だったので、生活基盤が安定せず苦労しました。治安に対する不安もありましたが、サモア人の同僚や家族の一員として私と接してくれたサモアの家族がいつも心配して、気にかけてくれ、多くのサモア人に支えられていることを改めて実感しました。

・楽しかったこと、やりがいを感じたことはどのような事でしたか？

自分だけではなく、常に同僚やチーム全員で目標達成に向けて活動することができたことや、それぞれのワーカーの技術や知識が向上しているのを見て、やりがいを感じました。また、病院の小児科医と連携して、障害児の早期発見・介入、また障害児の健康状態のフォローアップの体制を構築でき、他機関と協力できるようになったことでリハビリを受けることができる子どもたちが増えて嬉しかったです。

4 活動を通して得られたこと、あなたが変わったなと思うことはどのようなことですか？

例えば 能力面（語学、専門性）、資質・性格面、価値観・考え方、人間関係、その他（感動、夢）【400字程度】サモア人は家族や周囲の人をととても大切にしており、それぞれの人としっかり向き合い、今を最大限に楽しんで生きています。

サモア人からよく、「日本人は家族と過ごす時間もなく働いて幸せなの？」などと聞かれ、生きる意味について考えさせられました。サモアでは1人暮らしでしたが、サモア人のおかげで、たくさんの家族ができて、一緒にご飯を食べたり、教会に行ったりしていたので、寂しさを感じたことはありませんでした。私もサモア人のように、今を大切にし、愛情深く、家族や友人、周囲の人と向き合って生きていくことが幸せだと感じるようになりました。



支援学校にてリハビリしている様子



◀ 支援学校の生徒たち

5 協力隊の経験を今後の人生にどのように生かしたいですか？（仕事、趣味、地域での活動など）

協力隊の経験により価値観が変わったり、新たな自分に出会ったり、日本を客観的な視点で見ることができるようになりました。様々な経験（ここでは語りきれなかった）を伝えることで誰かが新たな一歩を踏み出す一助になればと思います。また、「Think Globally, Act Locally」を目指して、今後はコミュニティベースでの社会貢献活動に携わっていけたらと思っています。

VIVA COLOMBIA

今号では"語学"について、お話させて頂ければと思います。

初号でお話した通り、私は今スペイン語通訳という仕事をしています。

もちろん、スペイン語は青年海外協力隊員として、2年間コロンビア共和国に行って学んだ言語です。

コロンビア共和国に派遣される前に、長野県にある駒ヶ根市の駒ヶ根訓練所というところで2か月間語学の勉強をさせていただきました。

今から各国に派遣されていくみんなと共に2ヶ月間みっちり語学の勉強をしました。

2か月、私の中ではすごく勉強をし準備万端！

で、コロンビア共和国に着きましたが、現地の方の話すスピードやアクセントに苦戦し、2か月間では厳しいということを実感し、更なる勉強意欲が湧きました。

コロンビア共和国についてからも1ヶ月間はコロンビア共和国の首都ボゴタにて語学の勉強をしました。

その後、実際に野球隊員として、現地に向かったわけですが、やはり語学には相当な苦勞がありました。ボランティア活動の中で、1番の壁は"語学"にあると思います。

先に申し上げておくと、2年間でやりたかった活動の内容は、たった半年分しかできませんでした。

コロンビア共和国に行く前に作った活動計画表。

残念ながら、やりたいことが思うようにいかないことが多々ありました。

その原因はやはり語学。

言葉が伝わらない。伝えられない。

ということです。

その壁がすごく高く、なかなか活動が前に進まないことが多々ありました。

伝わらなければ、勉強するしかない。

のですが、一朝一夕で取得できるものではありません。

毎日の積み重ねが全てです。

私の勉強方法は、スペイン語の曲を聴きながら、聴いた歌詞を紙に書く。

書いている間は音楽を止める。

また音楽を流して、少し聴いたら、音楽を止めてまた歌詞を紙に書く。それを一曲終えるまで。

一曲終わると、最後まで聴きながら(途中で止めることもある)間違っている歌詞を書き直す。

その時は、多少意味が分からなくても、理解できない熟語があっても進めていきます。

それが終わり、音楽を聴くと不思議と紙に書いた歌詞が頭にすごく浮かんできます。

そして、新しい単語と熟語を学べます。

そして、音楽のいいところはいつでもどこでも聴けること。

歌詞を書いた音楽を聴くと、歌詞を書いていた時を思い出せて、フレーズや熟語が頭に浮かんできます。

少し忘れていた単語や熟語も音楽として聴くことで、思い出すことができました。

私は、スーパーやショッピングモール、レストランやバーで流れていた曲を調べて、それを家に帰ってからYouTubeで探して、歌詞を書く勉強をしていました。

私の中ではこの勉強方法はすごくおすすめです。
そして何より、音楽が大好きなコロンビア人がコロンビアの曲を歌う私を見て、すごく喜んでくれます。彼らが大好きなダンスも共に歌うと、彼らは大笑いして、私を喜んでくれました。

そうして、彼らの心を掴んでいくことも、私の活動を理解してもらおうと、語学の勉強と同様にとても大切でした。

あと、語学を覚えるためには

"話すことを恐れないこと"

私も含めて多くの日本人は、伝える前にその文法があっているのか、これで相手は伝わるのか。と考えてしまうことが多いです。

色々と考えてしまって、話ができなくなる。
あるいは、伝わらないと勝手に思い、話をしなくなる。
ということがあると思います。

私も、文法を間違わないように。正しく彼らに伝わるように。ということを考えすぎて、話をするのを躊躇うことが往々にしてありました。

ある日、うまく自分の気持ちを伝えられずに活動を困っていた時に、コロンビア人の同僚から
" ケイ(私の名前)！何かあったら伝えないとだめだよ。君の気持ちは君が言葉にしないと分からない。伝えないと、相手には伝わらない。だから話すことを恐れるな。"
と言われました。

肩の荷が降りたかのように、今まで自分が難しく考えていた"語学の問題"がスッと楽になりました。

例えば、少し文法を間違えても発音が違ってでも彼らは理解してくれます。
外国人の人が必死に片言の日本語で私たちに何かを伝えてきても、私たちは言葉の一つ一つを繋げて、予想し、理解することができると思います。

それに気づいてからというもの、伝えることに抵抗がなくなり、間違いを気にせずどんどん話せるようになりました。

そして、自分の活動を理解してくれる人が増えました。

自分から行動することを教えてくれたコロンビア人。
ボランティア活動をし、コロンビア人のために活動をしに向かったコロンビア共和国だったはずなのに、支えられているのはいつも私であったことに気づく毎日でした。



エピソード2

留年3年目の引きこもり、ビブリオバトルをする

益井博史さんによる連載企画「読書を通して、ヒーローになれる。」第2回をお届けします。

益井さんがビブリオバトルに出会ってから現在に至るまでの活動、ビブリオバトルってどんなことをするの？ その魅力とは!? など、様々な視点からお伝えしていきます。

今回は、ビブリオバトルに初めて出会った益井さんのエピソードです。ビブリオバトルはプレゼンが上手な人が出るイメージですが…？



【自己紹介】

益井 博史 (Masui Hirofumi)

- 青年海外協力隊2015 (H27) 年度3次隊 / 青少年活動 / ソロモン
- 立命館大学情報理工学部創発システム研究室 客員研究員
- 一般社団法人ビブリオバトル協会 職員
- ビブリオバトル普及委員会 理事
- 大学卒業後、まちづくり会社を経て青年海外協力隊に。帰国後、ビブリオバトル考案者の研究室で論文執筆や大会運営に携わる。
- 著書『ソロモン諸島でビブリオバトル』(子どもの未来社)
- 最近の趣味: サウナめぐり

(前回までのあらすじ)

ビブリオバトルは、5分間のトークで好きな本をおすすめするコミュニケーションゲーム！ でもそんなゲームを楽しめるのって、人前でスピーチするのが得意な人だけなんじゃないの～？

「カバーをおつけしますか？」 「あ、大丈夫です」

会計を済ませ、書店を出る。思わず咳払いをし、喉をさする。「ア、ダイジョウブデス」の短い発声に、喉がダメージを受けている。風邪を引いているわけでもないし、前日にカラオケではしゃぎすぎたわけでもない。声を出すのが数日ぶりだったからだ。

2013年。当時の私は、大学をずるずると留年し続け、ついに大学7年生の扉を開けていました。留学や起業など華々しい理由ではなく、部活を言い訳にろくに授業に出ず単位が取れなかっただけの私は、その頃にはすっかり誰とも話さない青年になっていました。単位のために授業に行き、それ以外の時間は大学図書館の一角を陣取ってひたすら本のページをめくる。それが生活のすべてと言ってもいいくらいでした。

本を読んでいるときは、自分の現状や未来といった、刃のような (に思えた) 現実を忘れることができました。宇宙の話、心理の話、生物の話、歴史の話、重大事件のルポルタージュ、空想科学小説…。本の中には心躍る世界が広がっていて、いつまでも読んでいたくなる一方、手当たり次第に読み漁れば読み漁るほど、自分が社会から遠ざかっていく気がしていました。

そんなある日、いつものように引きこもっていた大学図書館に、ある催し物のチラシが貼られていました。「ビブリオバトル」それがイベントの名前でした。

大学図書館が企画したビブリオバトルは、1ヶ月後図書館の中で行われました。そこで見事大活躍を…したのは出場していた学生さんたちでした。でも、観戦者席の隅に座っていた私は衝撃を受けていました。本の話をしている人がいる…！ 本の話をしていい場所がある…！

さらにその1ヶ月後、図書館には第2回のビブリオバトル開催を告げるチラシが貼られました。私は震える指で出場を申し込みました。



どんな本を紹介したら読みたいと思ってもらえるだろう？ どんな風に話せば興味を持ってもらえるだろう？ そもそも5分間話すために、どうしたら喉をリハビリできるだろう…？ 考えるべきことは山のようにありました。

そして、その日はすぐにやってきました。(次回へ続く)

今回の一冊：『変身』(フランツ・カフカ 著 / 高橋 義孝 翻訳 / 新潮社)

ある朝、グレゴール・ザムザが目覚めると、自分の姿が巨大な虫に変わっていることに気づく。それでも日常は淡々と過ぎ…？ 大学図書館にこもっていた頃、「あれ？ 今の自分って虫になったザムザとあんまり変わらなくないか？」って思っていました。

今回は、前回紹介した小説「真夏のガーデン」について、インタビューしていきます！

○「真夏のガーデン」のあらすじを教えてください。

税理士事務所に勤務しながら税理士を目指す小西美優は午前中に税理士試験を受験した後、午後から大好きな「枯山水」を見るために大徳寺の大仙院を訪れる。美優は真夏で誰も訪問者がいないと思ったが、本堂を巡っている途中で、ある男性を見かける。時間をかけて「枯山水」と向き合い、そしてひととおり本堂の拝観を終えた美優は最後にお茶のサービスを受けるために受付がある玄関に向かおうとした。その時、美優は住職から声をかけられる。そこには先程見かけた男性（大野晴人）がいた。住職は3人でお茶を飲みましょと奥の和室に2人を誘う。和室でお茶を飲みながら美優と晴人はそれぞれ自己紹介を行う。住職を交えて3人でゆっくりお茶を楽しんでいると突然、外から大きな雷の音が聞こえた。住職との談笑を終えた美優と晴人は大仙院の外に出るが、美優が玄関を出たところで突然立ちどまる。心配した晴人は美優に近づき、声をかける。そこには大仙院の謎？があった。税理士試験のために事務所から休暇をもらった美優は、職場にお土産を買う予定にしていた。晴人との会話で北山の有名なスイーツ店で購入することに決めた美優はスイーツ店に晴人と向かう。美優はスイーツ店でお土産を購入した後、店の喫茶室で晴人とひと休みして大仙院の庭のを中心に話をする。それぞれがなぜ大徳寺を訪れたのか、その中でもなぜ大仙院なのかについて話をする。その時に晴人はこの日の午前中、美優が税理士試験を受けていたことを初めて知る。晴人は美優のたゆまない努力と頑張りにエールを送る。その日、夕刻から大学時代の友人に会うことになっていた晴人はその旨を美優に告げ、ギリギリの時間まで店にとどまり、そして最後に美優を残して店をあとにする。店に残された美優は、その日一日にあったできごとを振り返るのだった。

○ストーリー誕生秘話を教えてください。

小説に出てくる住職は実際は大仙院の前の住職です。多くの著作物があり、今も大仙院の顔ともいえる存在です。大仙院をたびたび訪問する中で前住職と出会い、話をするようになりました。今回の小説は前住職からうかがった話からヒントを得て、作成しました。

○書き上げまでにどのくらい期間がかかりましたか。

2カ月半ぐらいです。

○作品を書く中での思い出を教えてください。

大仙院を最初に訪問した時にお寺の方から豊臣秀吉と千利休がお茶を楽しんでいた茶室の案内を受けました。そして、その茶室の前には国の特別名勝になっている枯山水の庭がありました。およそ400年前に歴史上有名な人物が実際に楽しんでいた茶室と庭を目の前にして、感動で体がしばらく動きませんでした。

○作品の中でこだわりの部分を教えてください。

大仙院の庭、枯山水の魅力をどうリアルに描き、伝えるかに注力しました。大海に流れこむ大河、水の流れをあらわす枯山水を目の前にして、主人公の小西美優がこの庭とどう向き合ったのか、その心の動きをうまく描きたかったです。

○この作品をどのような人に読んでもらいたいですか。

これから長い人生を歩んでゆく若い方に作品を読んでもらいたいと思います。



○「真夏のガーデン」を執筆する中で一番苦戦した、大変だったことは何ですか。

小説のタイトルがなかなか決まらなかったことです。

○最後に、皆さんに向けて作品の魅力PRをどうぞ！

最新作の「真夏のガーデン」を含めて、これまで5つの短編小説を作成してきました。実際に京都の街をあちこち散策する中で、この街に横たわっている物語を拾い上げてきました。

今回の小説を含めて、街中のカフェを小説の舞台として、必ず登場させています。街中のカフェが、人と人とが出会い、そして語り、それぞれの「人生の交差点」の役割をはたしていると思うからです。

街の本当の魅力を知るには「まずは街をよく見て、感じること」だと思います。「百聞は一見にしかず」です。なぜ大徳寺が多くの戦国武将たちの帰依を集めたのか？そんなことを考えながら、大徳寺を訪れてみるのもいいかもしれません。小説「真夏のガーデン」をきっかけにして、皆さんがこれまで以上に、日本の美や粹の本質に関心を持っていただけたら嬉しいです。

「真夏のガーデン」はこちらから



「トルコ・シリア地震救援金募金活動」のご報告

2月18日(土)開催の「2023明治安田生命 J 1リーグ 第1節鹿島アントラーズ戦 キックオフ@サンガスタジアム by KYOCERA」において、「トルコ・シリア地震救援金募金活動」を実施いたしました。

当日は、シリア隊員OBも参加しました。

たくさんのサッカーファンの皆さんが募金ブースへ立ち寄られて、呼びかけながら感謝でいっぱいでした。その様子が京都サンガF.C.ホームページで伝えられています。

<https://www.sanga-fc.jp/news/detail/17680>



行事予定のお知らせ

協力隊ナビ ～世界もあなたも可能性に満ちている～

日時： 2023年5月26日（金）19:00-21:00

場所： 喫茶デカイ穴（603-8225 京都市北区紫野南舟岡町85-2 2階）

内容： 20代の若い人たちが運営する喫茶バーで、協力隊応募希望者の相談に乗ったり、協力隊の経験や概要を伝えたりします。
協力隊OBが集う機会にもなっています。
申込不要。ワンドリンクご注文ください。

JICA海外協力隊2023年春募集

5/31(水)19:00-21:00 @キャンパスプラザ京都

6/ 3(土)14:00-16:00 @京都経済センター

6/18(日)14:00-16:00 @京都テルサ（京都府民総合交流プラザ）

International Gathering in KOCA's tomato farm

KOCA国際交流カフェ～菜園でトマトを育てよう、お茶しよう、語らおう

今年、Guest House Kyoto Inn でトマトやハーブを育て始めます。

夏にはトマトの収穫祭を目指しています。

友人知人、国際交流に興味のある人たちとお茶を飲みながら、情報交換や近況を伝え合う場になったらいいな、多国籍な人たちが集う場になったらいいなと企画しています。一緒に楽しみましょう♪

日時： 4月23日（日）13:30-16:00 & 5月28日（日）13:30-16:00

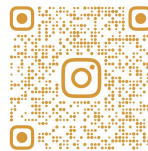
場所： Guest House Kyoto Inn 京都市下京区朱雀正会町15-8

申込不要。出入り自由。参加費100円 詳細はFacebookにて。

3月9日、Instagram始めました!

表敬訪問や壮行会、イベントなどの情報や写真をいち早くお届けできるようにしました。

ぜひフォローしてチェックしてください→



@KYOTOKOCA_NPO

KOCA NEWS4月号、いかがでしたか。

KOCAネットでは、各種行事の案内や会員の関連する行事を紹介しています。

登録ご希望の方は、office@koca.or.jpにメールを送り、お名前とメールアドレスをお伝えください。

HP



Facebook



Instagram



も見てね!